林業と樹木医の関わり

東京都森林組合 檜原事業所 所長／樹木医　竹内　希美重

森林組合という職場に勤めていながら、樹木医の資格取得にチャレンジしてみようと考えたのは、同業者で第12期の樹木医である方と偶然知り合ったことがきっかけになります。

元々、私は学生時代に造園学から林学に転向した人間であり、アルバイトで樹木調査を行うなど、樹木医に関心がなかったわけではありませんでしたが、まさか森林組合での実務が業務経験になると考えておりませんでした。

しかし、せっかくならチャレンジしようと心を決めて、平成26年頃から1～2年間、『樹木医の手引き』を読みノートにまとめるという形式で勉強をしてみました。夜は苦手なので、朝5時に起きて1時間くらいずつのゆっくりとした勉強法です。過去問題は、平成27年度の試験前1か月くらいに集中して取り組み、論述については、頭に浮かんだことを、時間制限を設けて書くという練習を行いました。

平成27年7月、母校が受験会場という緊張しない環境で、運良く一発で樹木医研修受講者選抜試験に合格、つくばでの2週間の研修も乗り切り、何とか樹木医の資格を取得することができました。

資格取得後も、業務は林業主体のため大きな変化はありませんが、近年、伐期を迎えた人工林の伐採後に花粉の少ないスギ等を再造林する業務や、カシノナガキクイムシの被害を未然に防ぐための広葉樹林の若返りを図る業務に携わっています。

再造林に関しては、急傾斜地で土壌の薄い箇所への植栽（活着率が悪い）やシカの食害を念頭においての作業になりますし、広葉樹林の若返りについては既に60年を超えた高齢級の雑木林をどうすれば再生できるか等、各関係団体からアドバイスをいただきながら取り組んでいます。

東京の山林は、いわゆる他県の林業地と異なり急傾斜（平均斜度35°くらい？）で、人工林であっても現在の材価ではほとんどの場所で木材搬出が困難な状況です。そのような中、東京の近郊という立地条件において環境整備としての林業が主流となっていますので、樹木医の知識を生かし、森林そして樹木をいかに良好な状態で残していくかが、これから取り組む大きな課題と考えています。

樹木医はハードルの高い資格というイメージがあるようですが、林業職では樹木診断という実績があまりないため、同期の仲間や先輩方と一緒に行う樹木診断が主で、まだまだ研修医のような気持ちでおります。

しかしながら、神社の御神木や、お寺の境内のスギなどの診断依頼もあり、複数名で勉強を兼ねて見て回ることもあり、大変勉強になります。

まだまだ責任をもって一樹木医として活動することはできませんが、多業種の樹木医の皆様と一緒に診断を行う方が、それぞれの得意分野を生かした診断、治療ができるのでベストではないかと思います。

最後に、私は樹木医を取得し、多くの同じ意識をもった仲間ができたことが一番の財産だと感じています。

写真　斜度45°の植栽地